

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770800324		
法人名	社会福祉法人天心会		
事業所名	グループホームすこやか2		
所在地	福島県喜多方市松山町村松字北原3656-1		
自己評価作成日	平成31年1月5日	評価結果市町村受理日	平成31年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成31年2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○個別ケアに重点を置き、センター方式を取り入れ、利用者様の思いや出来る事に目を向け、その方らしい暮らしが出来る様支援している。○地域に出向き、地区の様々な行事に参加させて頂くことで地域の方々とのコミュニケーションを図る事が出来ている。認知症カフェの開催にあたっては、チラシを回覧板で配らせて頂くなど、認知症に付いてのご理解、ご協力を頂いている。地域の一斉清掃の日には職員が参加し、地域の方々と共に道路、歩道等の美化活動に努めている。○医療福祉ゾーンの一画にあり、必要な時に専門医の医療を受けることが出来る。また、緊急時の協力体制が整っている。○毎月の部署会議、勉強会、法人単位での研修会が年間計画され、知識を深め、職員の資質の向上に積極的に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内の目のつくところに展示している。年度初めの部署会議では事業所の理念を読み合わせ、理念のもつ意味を話し合い、職員間の意識付けが出来るようになっていく。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、お祭り、文化祭に出掛け参加している。文化祭に向け、入居者が力を合わせ作品作りを行ない、出展し地域の方々に認知症の理解を得られている。近隣の保育園児の訪問があり、交流を深めている中学生のボランティア体験学習の受入れや看護学生の実習受入れ等行なっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座、ステップアップ講座の研修、実習の場の提供をおこなっている。市の認知症強化月間では隔月でおこなっている認知症カフェの様子や、日常生活の様子を紹介したポスター展示を市役所ホール、公協施設に展示している。市民一斉清掃に職員が出向き地域の美化活動に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	事業所の外出支援や行事、日常生活の様子をスライドショーで紹介している。苦情、事故等の報告をおこなったり、感染の時期にはマニュアルの提示、取り組み等を報告し、委員1人1人から意見、アドバイスを頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市のグループホーム連絡会や認知症カフェ情報交換会、運営推進会議に出席し意見交換等の交流を持ち、協力関係を築くよう取り組んでいる。定期的に介護相談員、傾聴ボランティアの方が訪問され、入所者の声を直接聴くことで、ケアサービスの見直しに繋がっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人やグループの身体拘束廃止、虐待防止委員会や施設内、外の研修に出席し、意見交換や情報交換等交流の機会を持ち、すこやか職員に伝達している。日々拘束がおこなわれないようなケアサービスを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	職員自身のケアの振り返りが出来るよう、6月、12月の年2回のセルフチェックおこなわれている。また、サービス向上委員会でも接遇マナーに力をいれ、入居者様により良いサービスの提供が出来るよう心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が研修会等で学んだ事を職員に伝達している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族に解りやすい様説明し、納得頂いた上で契約の締結をおこなっている。法改正の際には文書にて説明させて頂き、ご理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やご家族面会時、ケアプラン説明時、また日常会話の中からご本人、ご家族の意見、意向を伺いながら気持ちを汲み取れるよう心がけている。意見箱を設置する事で意見を言いやすいように、配慮している。第3者委員を設置し、言いやすい環境を作っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部署会議や人事考課の個人面談で自由に意見を言える環境が整っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度が設けられており、職員一人一人が目標を設定し、それに向けて日々邁進出来るような、やりがいのある職場作りに心がけている。ストレスチェックを行ない、気望者は産業医と話が出来ると体勢が取られている。福利厚生も明文化されており、年1回の職員旅行を企画している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修会に参加出来る機会をもうけている。研修報告を部署会議でおこない、他の職員へのレベルアップに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会や福島県認知症グループホーム連絡会に参加し、様々な情報や意見を頂きケアに繋げている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設内見学は随時受け付けており、案内をしている。入所前には本人様やご家族様にお会いし、お話を伺ったり普段の様子を見させて頂いている。安心して入所して頂けるために、不安なことや要望を伺い、受け止めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネージャーとも情報交換し、ご家族様の思いや、困っている事を伺い少しでも取り除けるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様やご家族様が何を必要とされているかを見極め、あらゆるサービスが利用できるようなチームで支援していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活する中で、経験豊富な知識を持つ利用者様を敬い、教えてもらいながら共に支え合い、家庭の雰囲気や大事に家族の一員としての関係を築けるように努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には連絡を密にし、お便りや電話で連絡を取り合い情報を共有している。また、必要時には協力依頼をして、共に支援している。面会や行事等に参加して頂き、一緒に過ごす時間を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様の馴染みの美容室に出かけたり、行政区の行事に参加している。また、友人を自室に招き入れたりしている。関係が継続できるように配慮しながら、今後も絶やさないように支援したい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が、声を掛け合い、支え合うような関係を築くことができている。孤立しない様、時には職員が間に入って、より良い関係作りの支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用時の関係性を大切にし、退居後も希望時には相談、支援に努めている。入院、他施設入所の際には、面会に行き、本人様の状態を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話、行動、ご家族様からの話等の中から、一人ひとりの思いや希望、意向を把握できるよう努めている。職員間で情報共有し、介護計画に繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、ご家族様、担当ケアマネジャーより詳しくお話を伺っている。その後に追加された情報についても記録に残し、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシート、毎日のカンファ、記録、申し送りノート等で現状の把握に努めている。状態変化時には、話し合う機会を持ち、職員間で情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を活用し、現状を把握している。ご本人様が、より良く暮らしていく事を支えていくためのケアプランとなるよう、ご本人様、ご家族様の要望をお聞きし、作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録、申し送りノート、実施記録表等で情報共有している。ケアの実践、結果、気づきは、その都度記録し、話し合い、介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様のニーズに対応できるよう努めている。同法人の他事業所との協力体制が出来ており、専門職と相談し、連携がとれている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握している。地域住民の協力を得ながら、利用者も一員として行事に参加している。又、グループホームの行事の際には、ボランティアとして来て頂き、交流が図れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、ご家族様の要望、希望を伺い、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築き、医療を受けられるように支援している。また定期受診時には職員が同行している。本人及びご家族様の要望を大切に支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中での情報や気づきを毎日のカンファレンスで報告し、提供を実施している。利用者様が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーを提供し、状態、情報の提供を行なっている。また病院関係者との情報交換や、相談に努め、関係づくりを行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、看取りについての指針が作成されている。週末期についてはご家族様、医療機関との話し合いをもち対応をおこなっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えてのマニュアルが作成されている。マニュアルに沿って対応を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	様々な災害を想定した避難訓練を、他部署や他施設の協力を得ながら年間計画に沿って毎月行われている。災害に対するマニュアルも作成されている。また、消防署立ち入り訓練も実施している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりを尊重し、個々に合わせた理解しやすい言葉を用いて声掛け会話を行なっている。 グループ内のサービス向上委員会では、接遇リーフレットや接遇のポスターを作成・掲示し接遇改善に取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いや希望を言葉や動きの中から見出し、実行できるようにしている。思いの表出の少ない方にも、言葉かけを多く行い、自己決定の支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の希望を伺ったりペースに合わせてながら、好んで行われる活動を行なったり、休息を取って頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や寒暖に配慮しながら、衣替えを行ったり、衣類の調整を行なっている。整髪については、ご家族の協力を得て、行きつけの美容院・理容院に出掛けたり、出張理容を行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	畑の野菜を収穫に行ったり、頂き物の野菜から会話が広がる事がある。野菜の皮むき等の食材の下ごしらえや食事の盛り付け、食器拭き等を行なって下さる方が多く、食事作りに参加いただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量が、特に少ない方にはチェック表を用いて、摂取量の確認を行ったり、意識して摂取の介助や声掛けを行なっている。利用者の好みに合わせた飲み物を準備し飲んで頂く事で水分が摂れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や食後、就寝前に歯磨き・うがいの声掛けを行ない口腔内の清潔保持を行っている。義歯使用者は就寝前には外して頂き、義歯洗浄剤に朝まで浸け、義歯の消毒・臭いの防止を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、一人一人に合わせた排泄で行う事で個々のトイレや、ポータブルトイレ使用して頂いている。着脱においては、可能な限りご自分で実施して頂いている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、寒天ゼリーを提供し、食物繊維を摂って頂くことで薬に頼らず、排便が見られるよう試みている。受診時に医師に相談して、その方に合った下剤も使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間を気にされる方、羞恥心が強い方に合わせ、立位の不安定な方に合わせた入浴方法考え安心して頂くよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に合わせ、休息したり、就寝されている。その方のペースに合わせて安心して、休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の手元に届くまで職員がチェックを行い、飲み忘れが無いよう服薬して頂いている。服薬中の変化についても観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好みの活動や出来ることを行なって頂くことで明るい楽しみを持ち、充実した生活を送って頂けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じて頂けるように、天候を見ながら、花見や紅葉狩りのドライブに出掛けたり、個人の買い物や行事の準備品の買い物に出かけている。ご家族様も、催し物や自宅・美容室などへの外出に協力して下っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族とご本人と相談しながら、自己管理で財布を持たれる方がいる。お小遣いとして事務所で預かっているお金があり、外出や買い物の際使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望される時や不安になられる時など声を掛けいつでも連絡できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて、皆さんで過ごす空間や廊下に花や絵う飾り、会話を楽しまれ、居心地の良い毎日を過ごせる様に心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外の景色を観ながら話をしたり、思い出話を皆さんで語り、気の合う方とお部屋で歓談されることや食事の手伝いを気持ち良くして頂き気持ち良く過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	馴染みの家具や思い出の写真を持参され、見て思い出話を思い出して、懐かしんで話題作りの一つになっている。お部屋のお掃除のときなどプライバシーに配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人お一人の状態に合わせ、安心して生活を送れるようご家族の方の協力、専門業者の方に安全に過ごせる環境整備に工夫している。		